開拓十年の記録

写真でみる開拓十年の記録を、高村光太郎先生の詩によつて編集してみた。

また立ちあがりかじりついて……岩手山麓開拓地

赤松のごぼう根がぐらぐらと…　九戸郡大野村開拓地

あそこにあるのはブロック建築　サイロは高く絵のようだ…岩手山麓開拓地

開拓十周年

高村光太郎

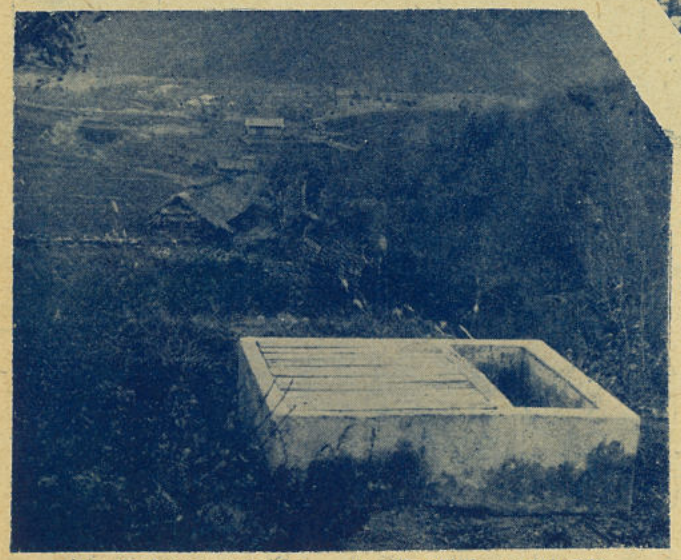
赤松のごぼう根がぐらぐらと
まだ動きながらあちこちに残つていても、
見わたすかぎりはこの手がひらいた
十年辛苦の耕地の海だ。

今はもう天地根元造りの小屋はない。
あそこにあるのはブロック建築。
サイロは高く繪のようだし、
乳も出る、卵もとれる。
ひようきんものの山羊も鳴き、
馬こはもとよりわれらの仲間。

こまかい事を思いだすと
氣の遠くなるような長い十年。
だがまたこんなに早く十年が
とぶようにたつとも思わなかつた。
はじめてここの立木へ斧を入れた時の
あの悲壯な氣持を昨日のように思いだす。
歡迎されたり、疎外されたり、
矛盾した取扱いになやみながら
死ぬかと思い、自滅かと思い、
また立ちあがり、かじりついて、
借金を返したり、ふやしたり、

開拓に花のさく時…　九戸郡大野村開拓地

はじめて立木へ斧を入れたとき…



開拓に富の蓄積される時……岩手郡江刈開拓の畑地灌漑

この運命をおうらかに記念しよう……岩手山麓の抜根試驗

ともかくも、かくの通り今日も元氣だ。
開拓の精神にとりつかれると
ただのもうけ仕事は出來なくなる。
何があつても前進。
一歩でも未墾の領地につきすすむ
精神と物質との冒険。
一生をかけ、二代三代に望みをかけて
開拓の鬼となるのがわれらの運命。
食うものだけは自給したい。
個人でも、國家でも、
これなくして真の獨立はない。
そういう天地の理に立つのがわれらだ。
開拓の危機はいくどでもくぐろう、
開拓は決して死なん。

開拓に花のさく時、
開拓に富の蓄積される時、
國の經濟は奥ぶかくなる。
國の最低線にあえて立つわれら、
十周年という区切り目を痛感して
ただ思うのは前方だ。
足のふみしめるのは現在の地盤だ。
静かに、つよく、おのずおくせず、
この運命をおうらかに記念しよう。